

2022年度

川崎市視覚障害者情報文化センター
事業報告書

社会福祉法人 日本点字図書館

目次

ページ番号

1. 総括	-----	1
2. 事業の成果	-----	1
(1) 点字図書館事業	-----	1
(ア) 図書の出借・提供	-----	1
(イ) 点字図書・音訳図書・DVD映画音声ガイドの製作	-----	4
(2) 相談・訓練事業の取り組み	-----	5
(ア) 相談・訓練実績	-----	5
(イ) 訓練生同士の懇親会の開催	-----	6
(ウ) 訓練生屋外交流会の開催	-----	7
(3) 視覚障害者用具の展示と斡旋	-----	7
(4) ボランティアの養成と連携	-----	8
(ア) 点訳関係	-----	8
(イ) 音訳関係	-----	8
(5) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓発・普及	-----	9
(ア) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携 (a~e)	-----	9
(イ) 啓発・普及 (a~e)	-----	11
(6) 広報活動・イベントの開催	-----	13
(ア) 広報活動 (a~d)	-----	14
(イ) イベントの開催 (a~h)	-----	17
(7) 防災・減災	-----	21
(ア) 新型コロナウイルス感染予防対策について (a~d)	-----	21
(イ) モニターカメラの設置	-----	21
(ウ) 防災グッズの整備	-----	21
(エ) 緊急連絡網の整備	-----	22
3. 利用状況	-----	23
(1) 閲覧・貸出	-----	23
(2) 資料製作	-----	24
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成	-----	25
(4) 相談・訓練事業の取り組み	-----	25
(5) 啓発・普及	-----	26

1. 総括

今年度（2022年度）も新型コロナ感染予防対策を行いながら事業を進めた1年でした。7月28日には、1日に23万人が陽性者となり過去最多を記録。東京都や大阪府など都市部の検査陽性率は50%を超え、8月2日に神奈川県は、BA.5対策強化宣言を発令、9月末まで続けました。そのような状況の中、センターではこれまでの感染予防対策に加えCO2濃度計を設置し、換気に十分注意しながらイベントを中止することなく開催しました。

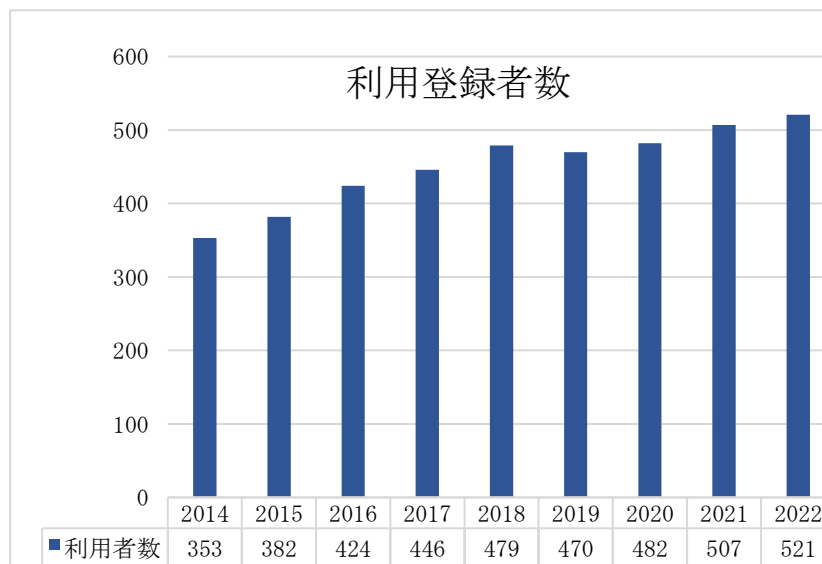
視覚障害者の方々がウィズコロナの生活に慣れてきたため、歩行訓練、パソコン・ICT（スマートフォン等）機器の訓練、各種の相談件数も大きく増え、用具の斡旋、イベント参加者も年度後半には通常通りに回復してきました。また、医療機関との情報交換会、障害者相談支援センター、地域包括支援センター、役所の障害担当などに行った事業説明会、病院への出張事業説明会などを行ったことにより、当センターの事業を広報しました。それらによる効果か否かはわかりませんが、各方面から紹介され来所する方が増えてきており、地域資源の一つとして当センターが認知されてきているという感触を得ています。

2. 事業の成果

(1) 点字図書館事業（図書の貸出・提供/製作/ボランティアの養成）

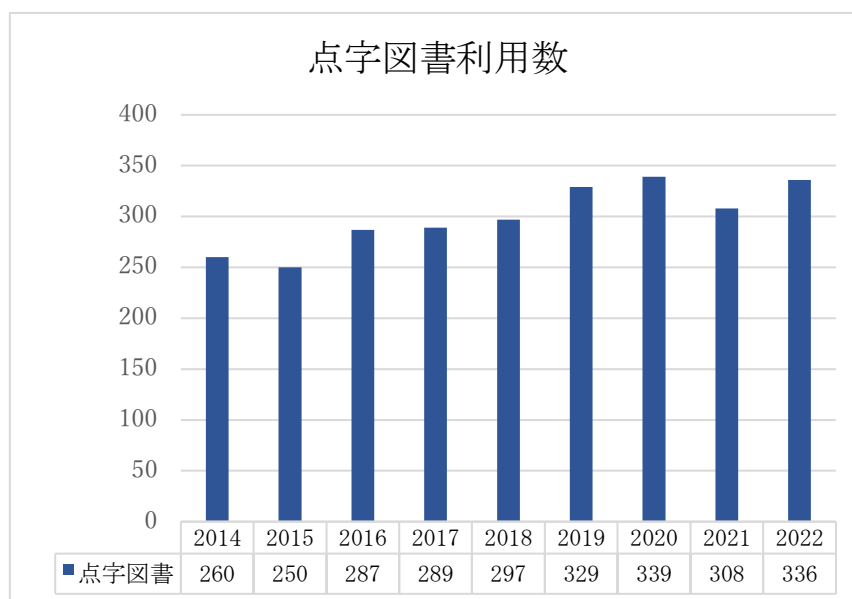
利用登録者、点字図書・CD図書、ダウンロードの利用状況を俯瞰します。

(ア) 図書の貸出・提供



今年度の利用登録者数は前年度より20名増加しましたが、登録した本年度内にご逝去になるなどのケースも見られ、最終的に合計521人となりました。

利用件数は点字図書が 336 タイトル（前年度 308 タイトル）と前年度より増えた一方で、音訳図書は CD 図書が 7,792 タイトル（前年度 9,008 タイトル）と減少しました。



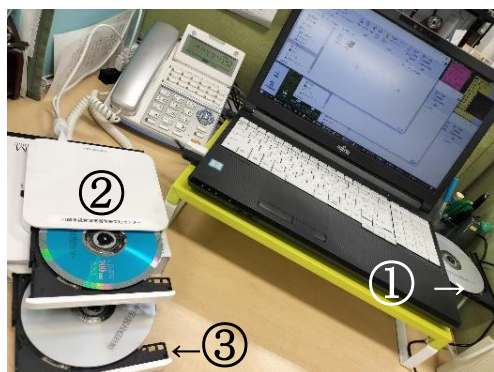
2020 年から徐々に減少傾向にある理由としては、視覚障害者もウィズコロナの生活に慣れて日常を取り戻しつつあり、外出するなど読書以外に時間を使うようになったものと推測します。

減少傾向にあると言いましても、当センターの貸出数としてもっとも多いのは CD 図書です。CD 雑誌の貸出数（3,954 件）と合わせるとその数は 11,700 件を超える件数です。貸出業務の中で最も時間がかかるのが、音声データの CD へのコピー作業です。当センターではなるべく早く利用者にお届けするために、サピエ図書館にコンテ

ンツのある図書は、所蔵館に相互貸借を依頼せずに、サピエ図書館からデージー図書をダウンロードし、CDにコピーして貸し出しています。今年度はこのコピー作業を効率化できないかを検討いたしました。（事例紹介参照）

事例紹介

データのコピーというとコピー機を思い浮かべます。一般のコピー機は一枚のマスターから複数枚のCDへ同時にコピーできますが、複数枚のCDにそれぞれ異なる音声データを同時にコピーすることはできません。現在パソコンでコピーしていますが、1台のパソコンでCDに1枚ずつしかコピーできません。パソコンに外付けCDドライブを追加接続しても、1枚のCDにコピーを開始すると他のドライブが無効になってしまいます。そこで、複数タイトルを同時にコピーできる専用機はないか探してみたり、専門の業者に問い合わせを試みましたが、なかなか解決方法が見つかりません。それでもあきらめずに取引のあるIT業者に相談してみたところ前向きに検討してもらえ、こちらの希望するプログラムを組んでもらうことができました。これによりパソコン1台で同時にドライブ複数台（現在は3台）にコピーできるようになり、作業効率は3倍となりました。利用者の様々なリクエストに対応する、非常に強力な仕組みを構築することができました。



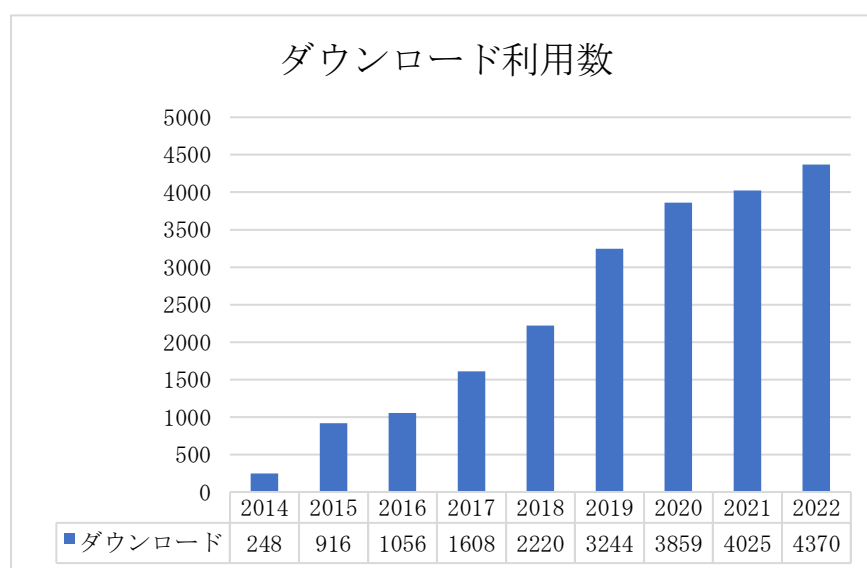
外付けドライブ2台を接続し
合計3台同時にコピー可能



プログラムはデータを置くフォルダー、実行ファイルの2つというシンプルなもの

他方、音訳図書の利用件数のうち、CD図書を利用せず個人所有のメモリーメディア等（SDカード・CFカード・デージーオンライン）を通して図書を提供する利用方法は過去最高を更新し、4,370タイトルの利用がありました（前年度4,025タイトル）。この背景には、今年度も夏期の休館や年末の休館の時期に合わせて「ダウンロードサービスおすすめセット（年間で10種のジャンル/各15タイトル）」を企画し

たことに加え、試験的なサービスとして「ネット閲覧室お届けサービス」を実施したことによるものだったと考えられます。



サービス提供方法が拡大するにつれて、従来の CD での貸し出しから利用のスタイルが変化しているということができます。2023 年度も引き続きネット閲覧室お届けサービスを実施する他、今後も機器・技術の発展に応じて、センターでは新しいサービスのあり方を検討し利用者の皆さまに提案していきます。

(イ) 点字図書・音訳図書・DVD 映画音声ガイドの製作

今年度も、コロナ禍の対応に準じた製作体制で取り組んでまいりました。点訳についての個別の相談は、対面ではなく、電話や Zoom を基本としました。校正作業は、視覚障害者と晴眼者がペアになって点訳された図書を視覚障害者が読み上げ、晴眼者が原本と照合します。これまでは一つの部屋に入って行っていましたが、コロナ禍になってからは Zoom を使用したオンラインに切り替えています。前年度からすでに実施した体制がなじんできており、今年度は目標の 40 タイトルを上回って 52 タイトルを製作することができました。こうした中で、点訳者 4 名の養成講座を年間通じて実施したり、自動点訳の導入を検討したりと製作基盤の強化を並行して進めました。自動点訳とは、原文に対して一文字ずつ人が入力しなければならない従来の方法に対して、点字入力を大幅に省力化できるソフトウェアで、本格的に運用ができれば点字図書をより迅速に製作できるほか、たとえば働いていて日中忙しい方でも点字製作に携わることができると考えています。

音訳においては、目標の 80 タイトルを上回る 86 タイトルの製作となりました。ただ、製作の課題となっているのは、音訳者及び校正者の「確保」と「維持」です。今

年度は校正者を新たに2名増やして迫りくる世代交代に備えた他、音訳者のみなさんが利用者からの声を直接聞く企画を催して、音訳活動へのモチベーションが上がるよう工夫しました。

プライベート制作については、音声版デージー、テキストデージー、プレーンテキスト、テープのデージー図書化という多彩なニーズに対応いたしました。

DVD映画音声ガイドの制作は、これまで二人で制作してきた映画の解説文作成を一人でも進められるよう体制を見直し、解説文作成の効率向上を図りながら、目標の25タイトルを完成させました。

(2) 相談・訓練事業の取り組み

(ア) 相談・訓練実績

今年度もコロナ感染対策をとりながら相談・訓練を行いました。Zoomを使用してのオンライン訓練のニーズも一定数あり、訪問、来所、オンライン、電話、メールの5つの方法からご希望に応じて対応しました。いずれの相談・訓練も、連絡があってから実施に至るまで日を置かないように、スピード感をもって対応しました。

歩行訓練士3名が年間を通して要望に応えるために精力的に川崎市内をまわっていることから、歩行訓練はほかのどの訓練よりも多くなっています。ICT（スマートフォン）のニーズは高く、利用件数が年々増加する傾向にあるため、視覚障害当事者職員2名で担当しています。相談・訓練以外でも、利用者がiPhoneの操作でわからなくなったときは、電話や来所時に気軽にたずねることができるようにしています。そのようなことも、利用件数が増えている要因と思われます。また、いずれの職員も、自らの指導スキルや最新の知識をアップデートさせるために、各種研修に積極的に参加したり、関係団体の情報交換会で事例発表したりするなど、自己研鑽にも力を入れています。

ここ数年の傾向として、相談全体が増えています。中でも、今年度は「生活相談」が大きく増加したことが大きな特徴です。前年度は66名に161回のところ、今年度は99名に239回実施しました。背景には、地域資源や医療機関との連携によって、センター利用の裾野が広がっていることがあげられます。80代以上で見えにくくなった高齢者の方が介護従事者からセンターを紹介されたり、眼科医療からの紹介で比較的早期の段階で、もしくは急性期の段階からセンターにつながるなど、さまざまな事情や病気、障害をお持ちの方が多くご利用いただいています。このような方々とはじめてお会いするときには、まだ障害を受け止めきれず、心の葛藤を抱え、不安が絡まっている状態のため、具体的に何かをやってみたいというニーズを最初から伺うことは難しい状況です。そのため、お話をじっくり傾聴し、どのような制度や便利な用

具があるかなどの情報をお伝えしながら、少しでも自分らしい生活を取り戻していただくように支援しています。また、生活困窮や家族関係などに課題を抱えている方もいらっしゃるため、地域の他職種の方々とともに支援をしていくことも増えてきました。

利用者の高齢化や障害の程度、進行にあわせて、また各種制度の変更やヘルパーの事情など、社会や地域、利用者の変化に柔軟に対応することがとても大切です。川崎市という地域の中でセンターの存在が周知され、頼りにされるためにも、今後もセンターの仕事を外部にできる限り知っていただくことを意識して事業を行ってまいります。

<訓練>

	訓練	
	名	回
歩行	17	263
パソコン	4	17
ICT	12	63
点字	2	13
日常生活	10	97
その他	14	42
合計	59	495

<相談>

	相談	
	名	回
歩行	53	146
パソコン	31	88
ICT	26	99
点字	1	8
日常生活	99	239
その他	7	8
合計	217	588

(イ) 訓練生同士の懇親会の開催

「アクロス」とは川崎市に在住・在学・在勤している視覚障害者の比較的若い世代の自主的なサークルで、センターが協力して交流会を開催しています。20代から60代前半までの方が、毎回テーマを決めて情報交換を行います。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため Zoom を利用し、オンラインで4回開催、のべ32名の方が参加しました。「スマホの不具合対応」「外出時や日常生活において困ったこと。その解決方法」「東日本大震災時の体験談等」など、毎回身近な生活上のテーマを設定して、ざっくばらんな雰囲気の情報交換を行っています。

(ウ) 訓練生屋外交交流会の開催

センターでは、すべての訓練が訓練生と指導員のマンツーマンで行われます。また自宅での訪問訓練も多いため、訓練生同士が交流をする機会はほとんどありません。そこで、訓練生同士の交流や親睦を深めることを目的に、年に1度川崎市の福祉バスをチャーターして屋外交交流会を実施しています。今年度も検温やこまめな手指消毒の実施、マスクの着用、黙食をお願いしたうえで10月6日（木）に開催いたしました。

今年の目的地は、東京都八王子市にある高尾山です。参加者は、訓練生6名と付き添いの方4名、職員7名の合計17名でした。

当日は、ケーブルカーの高尾山駅周辺を散策するグループと、薬王院まで往復するグループと二手に分かれ、散策を楽しみました。散策後のおたのしみ、昼食の歓談の時間も大切で、訓練のこと、日常生活でのちょっとした困りごと、おすすめのお店情報など、様々な話題が繰り広げられていました。

今回の参加者は、当事者同士の繋がりがあまり無い方、若い世代の方が多く参加されており、「同じような立場の方がいて、とても励みになった」といった声をいただくことができました。

(3) 視覚障害者用具の展示と斡旋

今年度は1,215点（前年度1,372点）の斡旋を行いました。

様々なニーズに応えられるよう、日常生活用具、便利グッズの新品を展示品として積極的に取り揃えました。また、視覚障害に加えて年齢や持病等の事情で来所が困難な方のニーズにも応えられるよう、訪問・短期貸出用の白杖や時計、ルーペ、携帯型拡大読書器等も種類を増やし、利用者の選択肢を増やせるように努めました。

さらに、利用者からの要望に応え、単眼鏡のセットを揃えました。離れた場所の文字を読むために使用するもので、レンズの組み合わせで高倍率のルーペにもなる商品です。ご要望くださった方はセンターで時間をかけてお試しになり、ニーズに合った商品を選ぶことができました。

点字電子機器については点字文書の作成の他にも音声図書の再生や録音など多機能な商品があるため、メーカーの社員の方によるセンター内での研修会を行ない、使用方法を学びました。また、川崎市の日常生活用具担当に最新の用具の情報を提供すると共に、それらの問い合わせに対応することにより、市の日常生活用具給付制度の向上に寄与することに務めました。



単眼鏡

用具の斡旋事業は、当事者の QOL 向上につながる大切な事業で、今後も来所者が増えてくると思われますので、視覚障害リハビリテーションの専門家である当センターの生活訓練スタッフと共に、課題解決のツールとして斡旋できるように努めてまいります。

(4) ボランティアの養成と連携

(ア) 点訳関係

点訳ボランティア養成講座を、市内の点訳ボランティア団体から推薦された 4 名の受講生に対して、6 月～12 月にかけて 16 回にわたり開催しました。点字図書の製作に必要な知識・技術として「かなづかい」「文節分かち書きと語の切れ続き」「英文とインターネットアドレス」「記号類の使い方」「本文のレイアウト」「標題紙、目次、奥付」「読みの調査」について解説しました。課題の提出は、点字用紙への手書きからパソコン点訳に徐々に切り替え、その後の活動につながるように工夫しました。4 名全員が審査課題に合格し、3 月 15 日の点訳活動説明会にて点訳者としての第一歩を踏み出しました。

点訳技術のスキルアップ、センターからの情報提供を目的に、点訳関係者連絡会を 2 回開催しました。第 1 回は 5 月 25 日（来場 7 名、Zoom 参加 26 名）、第 2 回は 12 月 1 日（来場 5 名、Zoom 参加 25 名）です。第 1 回では、「点字編集システム」の便利機能について、ソフトウェア画面を示しながら実演しました。本研修で取り上げた目次の自動作成については、その後徐々に普及しています。第 2 回では、2 つの内容を実施しました。前半は「点訳通信第 4 号」を配布し、新しい点訳方針を確認しました。後半は、他県の点訳グループのリーダー 2 名をゲストに招き、それぞれの意欲的な活動状況を紹介しました。専門点訳など当センター点訳者にはハードルの高い内容も含まれていましたが、大いに刺激になったと思われます。

点訳校正者会議は、4 月 20 日、10 月 26 日の 2 回開催しました。オンライン開催を原則とし、来館いただいた方には、当センターのパソコンからオンライン参加をお願いしました。オンラインを基本としたため、遠方の方も参加しやすくなり、全体的に参加者の負担も軽減できたと考えます。しかし、オンラインでは参加しにくいという校正者もあり、2023 年度からは連絡会同様のハイブリッド方式に変更する予定です。

(イ) 音訳関係

センターの音訳図書製作上の課題として音訳者に対する校正者数の人数不足がありました。今年度はベテラン音訳者 3 名を校正者として養成することができました。

これにより校正者は計 12 名となり、センターの蔵書製作の基盤が安定的なものになりました。

例年、センターでは音訳者の交流や技術の向上を目的に、年 2 回音訳者関係連絡会を開催しています。今年度はスキルアップに重点を置き、グループワークを企画しました。一冊の本を複数の音訳者で分担し、録音したものをお互いにチェックし合うことで校正力を磨くこと、他者の読みを聞くことで自分の癖などを客観的に省みて読みの改善につなげるようにするなど、全体的なスキルの底上げを目的としました。具体的には、6 月 30 日の第 1 回音訳者関係連絡会(来場 17 名・オンライン 5 名)でグループ分けを行い、11 月 24 日の第 2 回音訳者関係連絡会で発表することを目標に作業に取りかかりました。約 5 か月間で、グループ毎にメンバーで分担を決め、各自が音訳し、それを持ち寄り互いにチェックしあい、終盤には校正者が加わり、グループ毎に製作することができました。対面での話し合いを重ねたことは、基本的に単独で作業することが多い音訳者にとってとても刺激になったようです。

第 2 回音訳者関係連絡会では(来場 26 名)、グループワーク図書の完成報告会を行いました。グループワーク参加者の感想としては、他人のミスを指摘することの難しさに悩む声もありましたが、他の音訳者との話し合いが刺激になった、納期の順守への意識が高まったなど、おおむね良い手ごたえを得たようです。

また今年度は、全国視覚障害者情報提供施設協会の音声デージー図書製作基準が改訂された年でもあったため、センター所属の音訳者に加え、市内のオブリガード所属(川崎市視覚障害者ボランティア連絡会)の音訳関係グループに呼びかけを行い、改訂内容を説明する場を 12 月 22 日に設けました。4 グループから 9 名(来場 3 名・オンライン 6 名)の参加者があり、主に著作権に関する認識の確認など実務レベルで意見を交わしました。

次年度は音訳者養成講習会が開催される年ですので、音訳者の受け入れを増やし、利用者の皆様により安定的に図書を提供できるよう努めます。

(5) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携と啓発・普及

(ア) 地域の自治体、各種支援センター、各種団体との連携

総合新川橋病院や、生活訓練関係の団体との情報交換をオンラインで定期的に行うことにより、多方面の方々と連携する機会をもつことができました。また、小学校からの講演依頼に職員を派遣しました。

a. 眼科病院医療者との定例会や研修

眼科医師、視能訓練士、看護師と当センター職員の定期的なオンラインミーティングを今年度もほぼ毎月 1 回、全 11 回実施しました。白杖を持つことに葛藤のあ

る方、高齢者の支援について、小学生への啓発授業、病院で行っているロービジョン外来など、毎月テーマを決めて発表し、ディスカッションを行いました。

連携の輪をより広げたいと考え、2月は川崎市民が通院している市内や東京都内の病院の眼科によびかけて、眼科医療と福祉の連携を考える研修会「川崎発、希望をつなぐために視能訓練士と歩行訓練士ができること」を企画しました。ロービジョンケアに長年情熱をもって取り組まれている視能訓練士の塩田直子さんに「患者様のために視能訓練士ができること ～当事者と一緒につくった地域に開かれたサロン～」のご講演をいただき、当センターの歩行訓練士が「当センターの支援の実際 ～医療から紹介された患者様の対応事例を中心に～」を発表しました。眼科医師、視能訓練士、看護師、医療ソーシャルワーカー約50名に参加いただき、連携することの大切さをあらためて感じていただける機会となりました。

b. 神奈川県視覚障害者生活技術研究協議会事例検討会（オンライン）

視覚障害者に対する支援・訓練を行っている神奈川県内の学校・施設の集まりです。歩行訓練部会、コミュニケーション訓練部会、日常生活訓練部会、乳幼児部会に参加し、事例検討会や事務連絡会、職員研修に合計12回参加しました。11月8日に行われた職員研修は、神奈川障害者職業能力開発校現地見学会と加盟施設紹介で、久々の現地開催とZoomのハイブリッド方式となりました。県内の視覚障害に関連する情報を定期的に得ることができています。

c. 視覚障害者の日常生活訓練に関する連絡会（笹の会）との情報交換（オンライン）

日常生活訓練に関するオンライン情報交換に4回参加しました。会として製作している書籍『視覚障害者の日常生活訓練』を改訂することになり、内容の検討を行うことが今年のおもなトピックでした。1都3県にある視覚障害施設の日常生活訓練を担当する職員とつながって情報交換できる貴重な場となっています。

d. ICT ボランティアグループとの連携

近年、特に視覚障害者から iPhone の操作指導に関するニーズが高く、センターだけで市内全域をきめ細かくサポートすることはできません。そこで、センターと地域にある ICT ボランティアグループと連携し、当事者が地域の中で仲間と共に勉強し合える環境作りの支援を行っています。今年度は、あさお PC クラブへの講習を3回行うとともに、市内4団体との情報交換会を行いました。

- ・ 「あさお PC クラブ」の要請により、ICT 指導者、サポートメンバーを対象にした「iPhone の初心者向け講習会」を3回にわたり開催しました。当日会場に来

ることができない方のために Zoom によるオンライン参加も可能にしました。各回 20 名以上の方が参加しました。（5 月 24 日、6 月 28 日、9 月 10 日、会場：あさお福祉パル）

- ・ 市内 PC ボランティアグループとの ICT 情報交換会を開催（2 月 2 日）。川崎パソコンユーザー会（川崎区）、KPC（中原区）、宮前キーボードの会（宮前区）、あさお PC クラブ（麻生区）の 4 団体の代表者の方たちと各会の活動状況を報告し合い、課題の共有、情報交換を行いました。

e. 用具展示会

- ・ NPO 法人「すこやかいきいき協議会」主催の「かなエール」に、用具展示で出展しました。（2022 年 10 月 9 日開催）120 名余りが来場され、コインやお札を分けて収納できる財布や、新しい用具についてのお問い合わせが多数ありました。
- ・ 平塚盲学校内の用具展示会に出展しました。（2023 年 2 月 8 日開催）中学校から理療科の生徒、教職員の方がこられ、白杖、筆記具、音声時計、つめやすり、凸点シールなど定番商品をじっくり見ていただきました。また、拡大読書器の価格の高騰について問い合わせが多数ありました。
- ・ 川崎市視覚障害者福祉協会が企画した用具展に当センターが協力する形で、ウェアラブル機器体験会（2022 年 8 月 28 日開催）を開催しました。最新のウェアラブル機器 5 種（①オーカムマイアイ②エンジェルアイ、③暗所視支援眼鏡、④エンビジョングラス⑤「RETISSA Display II」）を展示。25 名もの参加があったので、希望の機器が体験できるよう、機器ごとに整理券を配布し対処しました。ほぼ皆様に希望の機器を体験してもらうことができました。（参加者 25 名）

(イ) 啓発・普及

市内の小学校の福祉の授業に、当センターの視覚障害者職員を派遣し、日常生活についての話、盲導犬歩行のデモンストレーションなどを行いました。

a. 福祉授業

- 高津小学校（4 年生約 200 名）
 - ・ 日時 2022 年 6 月 23 日
 - ・ 場所 高津小学校体育館
- 藤崎小学校（4 年生約 100 名）
 - ・ 日時 2022 年 10 月 19 日
 - ・ 場所 藤崎小学校体育館
- 浅田小学校（4 年生約 50 名）

- ・ 日時 2022年11月15日
- ・ 場所 浅田小学校体育館
- 東門前小学校（4年生約130名）
- ・ 日時 2022年11月24日
- ・ 場所 東門前小学校体育館
- 今井小学校（4年生113名）
- ・ 日時 2022年11月30日
- ・ 場所 今井小学校体育館
- 向小学校（4年生61名）
- ・ 日時 2022年12月6日
- ・ 場所 向小学校体育館
- 宮前小学校（4年生約120名）
- ・ 日時 2023年2月17日
- ・ 場所 宮前小学校体育館

b. 同行援護従業者（一般過程）研修「同行援護の基礎知識」講師派遣

日時 7月13日・9月13日・2月15日（延べ参加者39名）

場所 総合研修センター（ふくふく2階）

内容 同行援護従業者の養成研修が3回開催されました。その中の「同行援護の基礎知識」に講師を派遣。午前は、当センターを見学、視覚障害者の生活用具や図書の貸出について、実際の物や様子を見てもらいながら説明をしました。午後は、視覚障害者が用具を実際にどのように使って生活しているか、また、用具の給付制度についてなどの説明をおこないました。

c. JR東日本車掌向け研修（4名）

日時 2022年9月8日

場所 当センター多目的室

内容 JR東日本の車掌から、視覚障害者の鉄道利用について研修を受けたいという依頼がありました。視覚障害者の見え方や、白杖の役割、ホーム上の歩行や電車の乗り方、アナウンスや表示で配慮をしてほしいこと、事故を防ぐために何ができるかなどをお伝えし、有益な情報交換の場となりました。

d. 市内の相談支援専門員向け視覚障害者への支援に関する基礎研修への講師派遣（職員3名）

日時 2022年10月14日

場所 川崎市役所第4庁舎

受講者 約40名

内容 市内の障害者相談支援センター、特定相談支援事業所、行政を対象にした、川崎市総合リハビリテーションセンター企画の講座に講師を派遣しました。視覚障害の基礎知識、センターの事業、訓練の実際（歩行、ICT）、Q&Aコーナーの4部構成とし、ミニ機器展を併せて開催しました。訓練、日常生活用具の説明の際に動画を使用して説明したので、より理解が深められた様子でした。当事者と接触する可能性の高い市内のサービス機関へセンターの事業内容を説明することができたので、今後、障害になった方が早い段階でセンターに繋がることを期待したいと思います

e. 高津小学校の全盲の児童生徒への支援

高津小学校の小学校4年生の全盲の生徒への支援体制の再編があり、教育委員会よりセンターに協力依頼がありました。学校の先生、センター、点訳ボランティアグループの3者で話し合い、それぞれの役割分担を整理いたしました。教材の点訳について副教材の点訳を市内の点訳ボランティアグループが行っていますが、点訳に関する技術的な不安があるとの声があったため、センターが技術的支援を行なうことにしました。また、全盲の生徒が、自習の時間、読書の時間の時に自分で好きな本が読めるよう、センターが選定した「点字図書文庫(25冊/月)」を2月から設置し、月ごとに内容を更新するセット貸し出しの形態としてサービスを始めました。今後、生徒の読書の状況に応じて選定内容を検討しながら貸し出しを続ける予定です。

(6) 広報活動・イベントの開催

(ア) 広報活動

a. センター事業説明会

視覚に障害をもち様々な不便さを感じている方々が早期に当センターに繋がるように、主に行政の障害者担当や高齢者・障害者施設の方々、医療従事者に対して、毎年1回、センターの事業説明会を行っています。前年度は、新型コロナ感染拡大防止のため、急遽オンラインに変更して開催しましたが、今年は3年ぶりの対面開催となりました。区役所、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、リハビリテーションセンター、病院から13名の参加があり、当センターから、図書の貸出、歩行訓練、パソコン訓練、iPhone訓練、生活訓練、便利な用具の斡旋などについて担当から具体的に説明しました。アンケート結果からは、センターの「事業内容」や「どのような支援が受けられるか」ご理解いただいたこと、またさらに関心を持っていた

だいていることがわかる感想もいただきました。いただいた質問に後日お答えするなど丁寧に関係をつくっていくことで連携を深めてまいりたいと思います。

b. 聖マリアンナ医科大学病院の看護師への出張研修会

川崎市の中でも中核となる大学病院からセンターの事業内容及び、視覚障害者への対応について話をしてほしいとの依頼があり、2021年11月に続いて2回目の研修会を6月22日、病院に出向いて実施しました。当日は、病棟看護師を中心に、見えない・見えにくくなった方に対して、どのような支援を行っているかを具体的に説明しました。また事前に看護師からご質問をいただいていたので、どのようなことを知りたいのか、的を絞ってお話することができました。1回目の研修後に、看護師より患者をご紹介いただきました。この2回目の研修では、その方がその後訓練を受けながら前向きに生活されている様子をお伝えすることができました。

センターの事業や訓練事例、用具を知っていただくことで、患者が困っていることを想像して情報提供することの大切さをご理解いただけたと思います。また、患者が退院後どのように生活されているかフィードバックすることで、顔がみえる関係がより深まったように思います。



[病院事務室内での研修の様子]



[廊下で行ったミニ機器展の様子]

c. 第6回手をつなぐフェスティバルへ参加

12月3日（土）とどろきアリーナにて、楽しみながら交流し、障害への理解・共生の意識を深めることを目的に「手をつなぐフェスティバル」が開催されました。職員2名が参加し、机2台分に点字コーナー、用具コーナー、誘導体験コーナーを開設。40名もの来場があり、市民に視覚障害、センターについて知ってもらう良い機会になりました。



[とどろきアリーナでのブース設置状況]



[来場者の様子]

d. メディアによる広報

利用者・ボランティア・支援者の方々へ、以下のメディアにより広報を行いました。

● 新刊図書情報誌「ぶっくがйд」(偶数月発行)

2ヵ月に一度発行する情報誌です。新刊の点字図書、音訳図書、シネマ・デジターのほか、音声解説付きDVD映画体験上映会、音楽コンサート、読書会などのイベント情報、新商品情報などを掲載しています。点字版、音声デジターCD版、墨字版の3媒体があります。

3月末発行数 点字版 87部、音声デジターCD版 202枚、墨字版 292部

● メールマガジン「アイ eye」(月2回、10日・25日に発行)

メールマガジンは、インターネットを通してパソコンやスマートフォン、携帯電話に送信するメールの広報誌です。タイムリーな情報、イベントの紹介、センター周辺の変化、職員のコラム、図書や用具の紹介などが掲載されています。読者からは「役立つ情報が助かる」「センター職員をより身近に感じる」と好評をいただいています。

3月末登録者数 328人

● 音声版メールマガジン「音声版アイ eye」(奇数月、年6回発行)

メールマガジンを読むことができるのはパソコン、スマートフォン、携帯電話の利用者のみに限定されます。もっと多くの方に利用していただきたいと考え、メールマガジンの音声版を発行することにしました。2ヵ月、4号分をまとめ、合成音声で読み上げた音声版の雑誌を貸し出しています。

3月末貸出者数 13名

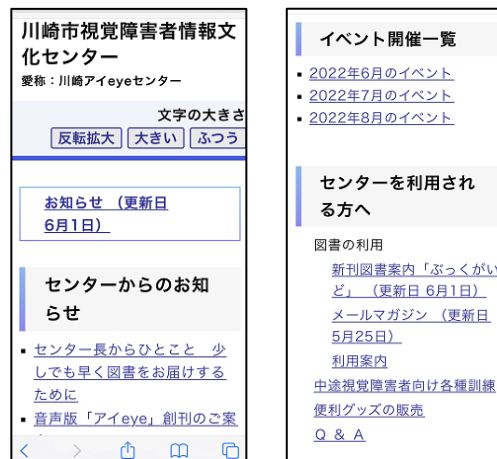
● ホームページ <http://www.kawasaki-icc.jp/> (毎月・随時更新)

ホームページでは、各種イベントをはじめとしたお知らせの他、センターに初めて関わりを持つ方が知りたい情報を掲載しています。今年度は、利用者から「ページの表示を白黒反転させると文字が大きくなる仕様だが、画面に文字がいっぱいになって読みづらくなってしまふ。反転しても文字サイズが変わらないよ

うにならないか。」というご意見をいただき、白黒反転しても文字サイズが変わらないボタン（反転・小）を設置して対応しました。



また、2022年5月より、当センターホームページがスマートフォンに対応しました。近年は視覚障害者のスマートフォンユーザーが急増しており、センターからの発信情報をよりタイムリーに入手してもらえることを期待しています。



[センターのスマートフォンサイト]

(イ) イベントの開催

川崎市は映像や音楽文化の振興・普及を促進しています。視覚障害者市民もこれらの文化に触れることができるように、例年、多数のイベントを開催しています。

今年度は、春のコンサート、冬のコンサート、落語会、音声解説付き DVD 映画体験上映会（毎月）、歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ：隔月）、ジャズ講座（5回）、ヨガ教室（20回）、読書会（年2回）等を予定していました。

a. 春のコンサート（ウォルフィージャズカルテット）

5月14日（土）午後1時30分から、ふれあいプラザかわさき2階ホールで開催しました。多数の申し込みがありましたので、全席指定席にし、席間を約1メートル離し、ホールの窓を開け、空気清浄機4台、送風機4台を配置しました。受付では、手指消毒、体温測定を実施。配布するプログラムは席の上に置き、受付後、すぐに着席してもらうようにしました。また、合間のトイレ休憩で密にならないように、こちらから列を指定して順番に行ってもらうようにしました。

リーダーのウォルフィー佐野さんは、サクソ、フルート、ボーカルをこなす全盲のジャズアーティストです。アメリカバークリー音楽院で学び、現在は表参道のジャズバードに自己のトリオでレギュラー出演しています。以前、川崎ファンプリング音楽学院で講師をされていた時に、当センターで歩行訓練を受けたのが縁で、今回出演してくださいました。今回のコンサートのために、ピアノ、ウッドベース、ドラムによるカルテットを特別に編成。本格的なジャズを聴くことができるとあって、約90名もの方が来場されました。

約2時間の演奏では、テイクファイブ、モーニンなど、おなじみの名曲を演奏。体をゆらしながら聴き入る人、立ち上がって踊る人など思い思いに楽しんでいました。また、プログラムの中にはウォルフィーさんの指導のもと、観客自身が持参した鳴り物でリズムを刻み、それに合わせて演奏する参加型の曲もあり、雰囲気は最高潮に。アンケートでは、「ぜひ、再度演奏して」という声を多数いただきました。



[ウォルフィージャズカルテット]

ウォルフィー佐野さん



[会場の様子]

b. 古今亭菊太楼師匠による落語会

落語は視覚障害者にとっても人気のあるイベントです。年末の落語会は今年で3年目。12月10日（土）には、78名の方が参加されました。高座は会議机を組み合わせ、赤い絨毯生地を貼り合わせた当センター自作のもの。音楽は、実際の落語会で使用されている出囃子をかけて、落語会の雰囲気作りを心掛けました。全席指定にし、感染予防対策を講じたうえで開催しました。コロナ禍の中で、なかなかイベントに参加できなかった当事者のみなさんに、大好きな落語を楽しんでいただきました。

c. 冬のコンサート（リトルクラシック inKAWASAKI）

2月18日（土）午後1時30分から、ふれあいプラザかわさき2階ホールで開催しました。久々のクラシックコンサートに72名の申し込みがありました。今回出演したのは、川崎市内を中心に地域の様々な場所で演奏活動をしている「リトルクラシック inKAWASAKI」の5人のメンバー。ピアノ・サクソフォン・ヴィオラ・フルート・打楽器という特別な編成で、どなたにも馴染みのあるクラシックを中心に様々なジャンルの曲を演奏しています。今回は、「カノン」（パッヘルベル）、「春（四季より）」（ヴィヴァルディ）、「動物の謝肉祭」の後に、「朧月夜」などの日本の唱歌や「サウンド・オブ・ミュージックメドレー」が歌も併せて披露され、参加者がメロディーや歌詞を追いながら一緒に歌う様子も見られました。アンケートでは、「クラシックから唱歌、タンゴと色々なジャンルの曲が聴けて楽しかった」「一緒に声を出して歌えて良かった」「参加もでき、曲の説明もあり、とても楽しめました」などの声が寄せられました。



[リトルクラシック inKAWASAKI]



[会場の様子]

d. 音声解説付き DVD 映画体験上映会

音声解説付き DVD 映画体験上映会はとても人気のあるイベントです。毎月1回、平日と土曜日の2日間同じ映画を上映し、各回定員20名、予約制にして、当日は参加者の座った位置を記録するようにしました。映画によっては30名近い申し込みがありました。新型コロナの感染者数の状況によって柔軟に対応し、希望者は全員参加できるようにし

ました。

今年度は中止することなく、予定通り開催することができ、24回、403名の方に来場していただきました。

e. 歴史的音源を聴く会（れきおんクラブ）

国立国会図書館が所有する約5万点のSPレコードや金属原盤の音源コレクションをテーマに沿って紹介するイベント、「れきおんクラブ（歴史的音源を聴く会）」を年6回、奇数月の第一土曜日に開催しています。野口雨情の童謡と民謡、1930年代から1950年代の映画主題歌、テイチクレコード特集、淡谷のり子とムード歌謡、股旅ものごたり、NHK国民歌謡とラジオ歌謡など、様々な種類の曲を専門家の丁寧な解説つきで、参加者の方々にお楽しみいただきました。

f. ジャズ講座

音楽を単に受け身で聴くだけではなく参加者自らが能動的な姿勢で学ぶ、講座形式のイベントをジャズ音楽で開催したいと考え、「音楽のまち・かわさき推進協議会」に相談したところ、講師を紹介してくださり実現しました。

講師の福本純也氏は川崎市出身のプロのジャズピアニストです。4つのパートにわかれた参加者が、教えられた異なるリズムパターンをそれぞれが手に持った打楽器で刻み、それに講師がピアノを載せて、全員で合奏するというものです。少し難しく感じた人もいたかもしれませんが、これまでにないやり方で音楽を学ぶことができると大好評でした。リズムパターン、ブルース、即興演奏を学んだあと、最終回は福本氏とベーシストのデュオによるジャズライブ。5回があつという間の楽しい講座でした。

g. ヨガ教室

年齢を問わず、健康でありたいと誰もが願うことですが、視覚障害者の多くは気軽に運動できる機会が多くないのが現状です。ヨガは自分のペースで体の状態や呼吸に合わせて行なうことができる、比較的取り組みやすい運動です。

ヨガの講師は前年度同様、「一般社団法人チャレンジド・ヨガ」の川崎エリア担当の方に依頼しています。安全第一を心掛け、まずは仰向けで呼吸の確認から座位で体をほぐし、毎回のテーマに沿ったポーズを分かりやすい言葉でゆっくりと、必要に応じて補助員が少しお手伝いをしながら進めていきます。

新型コロナウイルス感染対策として、前年度に引き続いて対面クラスの定員を8名に減らし、Zoomを使ったオンラインヨガも継続して実施いたしました。対面クラスは延べ161名で前年の約2倍、オンラインヨガは延べ27名の方が参加され、「体を動かしたい」

という希望に応える取り組みとなっています。

h. 小説の中の音を楽しむ会（読書会）

盲人図書館時代から続く歴史ある行事「読書会」は、1つの作品を各自で読み、参加者で感想を話し合うイベントです。今年度は、通常読書会に音楽的な要素をプラスし、「小説の中の音を楽しむ会」として開催したところ、参加者が増え例年の3倍になりました。

第1回

- ・日時 2022年6月10日（金）13:30～15:00
- ・作品 「蜜蜂と遠雷」 恩田陸著
- ・参加者 18名

テーマ作品は2017年の本屋大賞を受賞した作品です。センターでデジター図書製作を行い、サピエ図書館において2022年3月31日までに延べ7,262人の方が利用した人気の図書です。ピアノコンクールに参加する若者たちを描く小説で、小説の中には様々なピアノ曲が登場します。小説に出てくるピアノ曲の音楽CDを聴きながら、言葉で描かれた小説の表現と実際のピアノの音を聴き比べ、表現の面白さ・奥深さを楽しんでみました。小説と音楽双方にさまざまな感想が出され、参加者から好評でした。センターの音響の良い広い環境で、大人数で音楽を聴くことにより、一体感と臨場感のある体験ができました。

第2回

- ・日時 2023年1月13日（金）13:30～15:30
- ・作品 「羊と鋼の森」 宮下奈都著
- ・参加者 直接参加16名 オンライン参加6名

テーマ作品は2016年の本屋大賞を受賞した作品です。この小説は、偶然目にしたピアノの調律に魅せられて、調律師を目指す青年の物語です。ピアノを演奏するシーンで、どんな曲が演奏されたんだろうということを想像しながら小説の世界を楽しんでみました。今回はYouTubeによるライブ配信も行い、コロナ禍ということや、寒い季節の移動に不安のある方に対しても、楽しめる会といたしました。音楽をきっかけに小説にも興味が出てきたという方、この会で紹介した図書を予約して帰られた方もいて、読書へのアプローチとしては、大変実りのある会となりました。

(7) 防災・減災

(ア) 新型コロナウイルス感染予防対策について

- a. 除菌担当エリアを3グループに分け、毎朝朝礼後に実施するようにしました。また、部屋を使用した際には、使用した職員が使用後に除菌を行うようにしました。
- b. 受付で来所者の体温測定・体調チェックを行い、氏名、連絡先を記入後に入場していただき、万が一感染者が出た際にはすぐに連絡できるようにしました。
- c. ヨガ教室、音声ガイド付きDVD映画体験上映会、れきおんクラブ、ジャズ講座のような人が集まるイベントについては、今年度も受付時に体温測定・体調チェックを行い、参加者名簿に記録しました。また、開演中は出入口や窓を開け、大型空気清浄機2台を設置し、CO2濃度計を確認しながら空気を循環させました。
- d. コンサート、落語会では、ふれあいプラザかわさき2階のホールに、70名以上の方が参加しました。会場内の席の間隔をあけ、空気の循環に配慮し、合間のトイレ休憩はエリアごとに順番に案内し、終演後の退出の際、密にならないように順番に退席するなどの配慮をしました。

(イ) モニターカメラの設置

防犯、災害に備え、利用者・ボランティアが使用する部屋及び廊下（計5箇所）にモニターカメラを設置し、事務室内で部屋の状況をチェックできるようにしました（10月3日設置）。火災訓練を実施した際も、センター内の人の有無がすぐに確認でき、間違ってもセンターに入ってきた人もすぐに把握できるようになりました。（記録した映像は個人情報に該当するので、設置前に川崎市に申請し、許可を得ています。）



[事務室内のモニター]

(ウ) 防災グッズの整備

災害への備えとして、例年防災グッズを購入しています。今年度は、センター宿泊を想定した、ランタン、タオル、簡易トイレ、保存食品に加えて、万が一の事故に備え救急セットを購入しました。引き続き、計画的に食料品、備品を購入する予定です。

(エ) 緊急連絡網の整備

職員、パート職員へ緊急時にすぐに情報伝達できるよう、個人の携帯電話番号、メールアドレスを更新し、一斉にメールを送信し、受信可能な状態であることを確認しました。ゴールデンウィーク、夏期休館、年末年始休館期間中などに、万が一職員が新型コロナに感染した際にも、すぐに連絡を受けることができるようにしました。

3. 利用状況

(1) 閲覧・貸出

	2022 年度	2021 年度
① 利用登録者数	521 名	507 名
(新規登録者数)	20 名	26 名
(点字使用者数)	128 名	126 名
② 利用登録団体	304 施設	297 施設
③ 点字図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	3,608 タイトル	3,457 タイトル
(冊数)	12,733 冊	12,308 冊
蔵書数の変化 (新収書)	151 タイトル	176 タイトル
	425 冊	350 冊
貸出数	336 タイトル	308 タイトル
	1,125 冊	1,070 冊
(内 他館借受)	76 タイトル	78 タイトル
	264 冊	252 冊
(雑誌)	213 タイトル	229 タイトル
点字図書コンテンツのダウンロード提供		
メモリーメディア	28 タイトル	4 タイトル
④ 音訳図書の蔵書数および貸出・提供		
蔵書数 (タイトル)	6,579 タイトル	6,436 タイトル
(枚数)	6,615 枚	6,470 枚
蔵書数の変化 (新収書)	447 タイトル	251 タイトル
	447 枚	252 枚
貸出数		
(ア) カセットテープ	0 タイトル	14 タイトル
	0 巻	73 巻
(イ) CD図書	7,792 タイトル	9,008 タイトル
(内 他館借受)	3,485 タイトル	4,176 タイトル
(ウ) カセットテープ雑誌	0 タイトル	0 タイトル
(エ) CD雑誌	3,954 タイトル	4,145 タイトル

	2022 年度	2021 年度
デイジー図書コンテンツダウンロード提供 メモリーメディア	4,370 タイトル	4,025 タイトル
⑤ レファレンスサービス情報提供件数	583 件	332 件
(2) 資料製作		
① 点字図書の製作数		
(ア) 製作数	52 タイトル 198 冊	47 タイトル 158 冊
内訳		
委託製作数	23 タイトル 87 冊	20 タイトル 69 冊
委託外製作数	29 タイトル 111 冊	27 タイトル 89 冊
(イ) 寄贈	32 タイトル 92 冊	35 タイトル 78 冊
(ウ) プライベートサービス	11 タイトル	7 タイトル
② 音訳図書の製作数		
(ア) 製作数	86 タイトル	92 タイトル
内訳		
委託製作数	65 タイトル	69 タイトル
委託外製作数	21 タイトル	23 タイトル
(イ) デイジー編集	86 タイトル	92 タイトル
(ウ) 寄贈	104 タイトル	20 タイトル
(エ) プライベートサービス	19 タイトル	19 タイトル
内訳		
音訳	11 タイトル	10 タイトル
テキストデイジー (合成音声デイジー含)		
3 タイトル	3 タイトル	3 タイトル
プレーンテキスト	3 タイトル	1 タイトル
PDF	0 タイトル	1 タイトル
テープのデイジー化	2 タイトル	4 タイトル

	2022 年度		2021 年度	
③ テキストデイジー図書の製作数	5 タイトル		1 タイトル	
④ シネマ・デイジー/音声ガイドの製作数	25 タイトル		21 タイトル	
製作数	25 タイトル		21 タイトル	
内訳				
センター内製作数	10 タイトル		4 タイトル	
委託製作数	15 タイトル		17 タイトル	
(3) 点訳ボランティア、音訳ボランティアの養成				
① 点訳ボランティア養成講座				
開催回数	16 回		—	
受講者数	4 名		—	
② 点訳ボランティアスキルアップ研修会				
開催回数	2 回		4 回	
受講者数	63 名		50 名	
③ 音訳ボランティア養成講座				
指導回数	—		12 回	
延べ受講者数	—		108 名	
実受講者数	—		9 名	
④ 音訳ボランティアスキルアップ研修会				
指導回数	4 回		1 回	
延べ受講者数	65 名		36 名	
実受講者数	32 名		36 名	
(4) 相談・訓練事業の取り組み				
① 訓練				
訓練者実数	59 名	495 回	47 名	363 回
(新規訓練者数)	14 名		29 名	

内訳（複数提供あり）	2022 年度		2021 年度	
	名	回	名	回
歩行訓練	17 名	263 回	15 名	153 回
パソコン訓練	4 名	17 回	4 名	83 回
ICT 訓練	12 名	63 回	6 名	29 回
点字訓練	2 名	13 回	2 名	3 回
生活訓練(日常・調理)	10 名	97 回	8 名	48 回
その他	14 名	42 回	12 名	47 回
② 相談	217 名	588 回	216 名	531 回
③ 用具の展示と販売紹介	展示点数	387 点		372 点
	販売紹介点数	1,215 点		1,372 点

(5) 啓発・普及

① 事業報告会の開催

7 月 訓練事業説明会 参加者数 13 名

② 授業・講座への講師派遣

(ア) 当事者職員による「視覚障害者の生活について」小学校授業

6 月 23 日 高津小学校 参加者 4 年生約 200 名

10 月 19 日 藤崎小学校 参加者 4 年生約 100 名

11 月 15 日 浅田小学校 参加者 4 年生約 50 名

11 月 24 日 東門前小学校 参加者 4 年生約 130 名

11 月 30 日 今井小学校 参加者 4 年生 113 名

12 月 6 日 向小学校 参加者 4 年生 61 名

2 月 17 日 宮前小学校 参加者 4 年生約 120 名

(イ) 同行援護従業者研修講師

総合研修センターにおいて実施された同行援護従業者（一般過程）研修

「同行援護の基礎知識」講師派遣

7 月 13 日・9 月 13 日・2 月 15 日 延べ参加者 39 名

(ウ) JR 東日本車掌向け研修

9 月 8 日 センターに来所（職員 3 名で対応）。参加者 4 名

(エ) 地域のボランティア団体あさお PC クラブの『iPhone 講習会』へ講師派遣

5 月 24 日・6 月 28 日・9 月 10 日(参加者 当事者と関係者 各回約 20 名)

(オ) 「視覚障害者への支援に関する基礎研修」へ講師派遣

市内の障害者相談支援センター、指定特定相談事業所、行政機関の職員、相談支援専門員の方々を対象に、10月14日市役所第4庁舎にて行われた研修会に講師を派遣した。（参加者 約40名）

③ 訓練生交流会の開催

(ア) Zoomを使用した利用者交流会

当事者間の情報交換会（5, 8, 11, 3月） 開催数4回 延べ参加者数 32名

(イ) 屋外交流会（10月） 高尾山散策

参加者17名（内訳：訓練生6名+ガイドヘルパー4名+職員7名）

④ イベントの開催

(ア) 春、冬のコンサート（5月, 2月） 開催数2回 延べ参加者数 159名

(イ) 小説の中の音を楽しむ会（6月, 1月） 開催数2回 延べ参加者数 40名

(ウ) ジャズ講座（7, 8, 10, 12, 2月）…… 開催数5回 延べ参加者数 126名

(エ) 用具展：ウェアラブル機器体験会（8月）…… 参加者 25名

(エ) 古今亭菊太楼落語会（12月）…… 参加者数 78名

(オ) 音声ガイド付きDVD映画体験上映会 開催数24回 延べ参加者数 403名

(カ) 歴史的音源を聴く会「れきおんクラブ」 開催数6回 延べ参加者数 98名

(キ) チャレンジド・ヨガ …… 開催数20回 延べ参加者数 188名